

Glucocorticoid tapering pace in microscopic polyangiitis and granulomatosis with polyangiitis in Japanese real-world practice: A propensity score-matched retrospective cohort study from the J-CANVAS registry

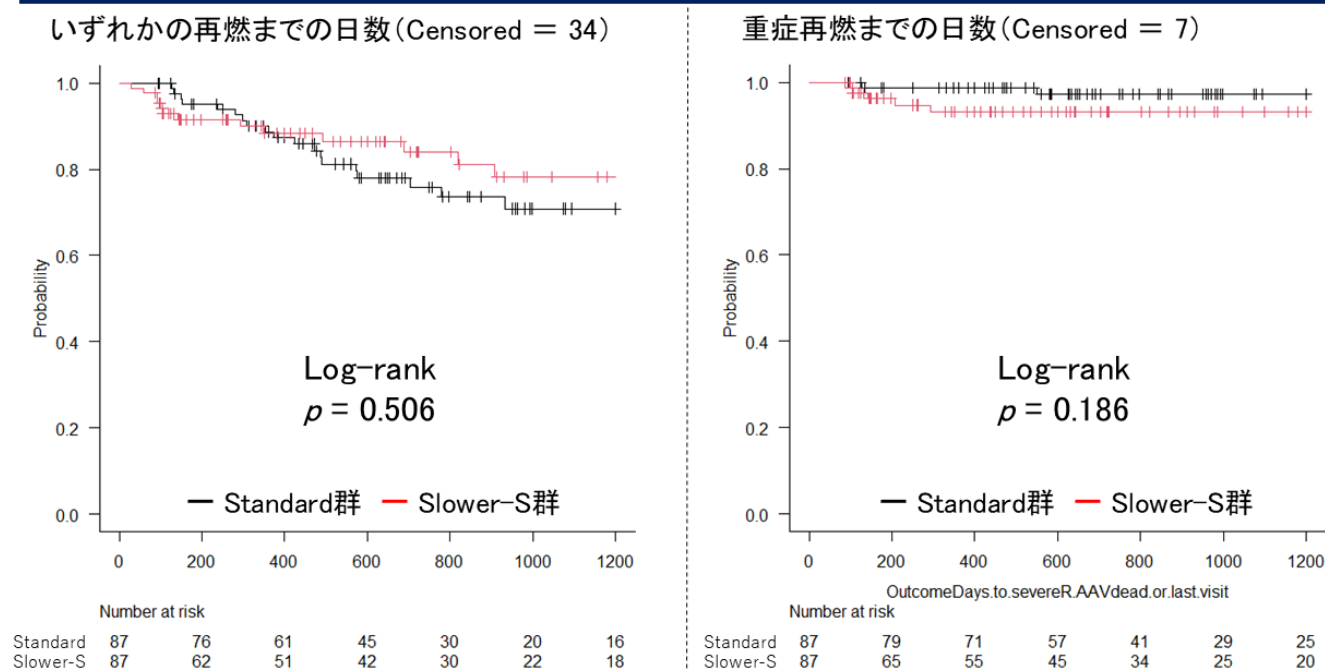
日本の実臨床に於ける顕微鏡的多発血管炎および多発血管炎性肉芽腫症に対するグルココルチコイドの減量ペース：J-CANVAS レジストリを用いた傾向スコアマッチングによるレトロスペクティブコホート研究

西岡 亮

本研究は、日本の実臨床における顕微鏡的多発血管炎（MPA）および多発血管炎性肉芽腫症（GPA）に対するグルココルチコイド（GC）減量ペースの実態と予後を、全国 24 施設からなる J-CANVAS レジストリのデータを用いて検討した後ろ向きコホート研究です。登録症例に於いて PEXIVAS 試験で用いられた標準および減量レジメンの適用率はそれぞれ 31.0%、3.8%に留まり、日本の MPA、GPA 診療に於ける Evidence-Practice Gap の存在が明らかになりました。また、標準レジメン群（31.0%）を、それよりも減量ペースが遅かった群（69.0%）と比較したところ、無再燃期間に有意差は認められませんでした。この結果は、GC の緩徐な減量が再燃抑制に寄与しておらず、不必要な GC 曝露となっている可能性を示唆しています。不必要な GC 曝露を回避するためには減量ペースに於ける Evidence-Practice Gap を是正する必要があります。

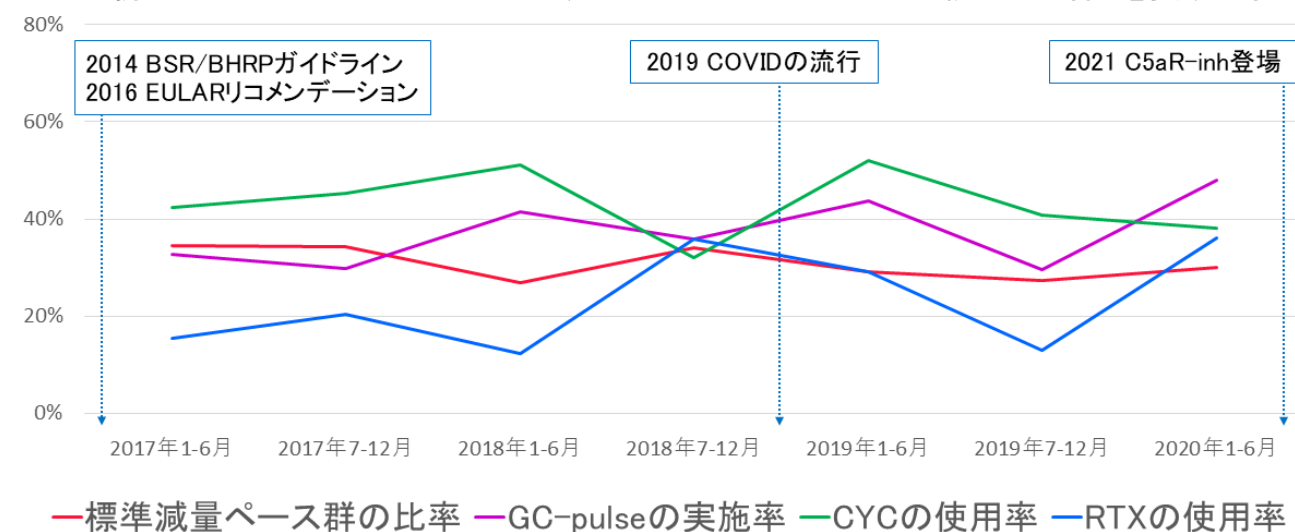
<https://doi.org/10.1093/mr/roae112>

Figure 2. 無再燃期間の比較 標準減量ペース群 vs 減量ペース遅延群



Supplementary figure 1. (改変) 2017-2020年の治療戦略の推移

GC減量ペースを含め、治療トレンドの変化は明らかではない。
新たなエビデンスが生まれても、Real-world Practiceへの浸透は時間を要する。



Nishioka R, et al. Mod Rheumatol 2025;35(3):496-504, Supplementary figure 1